

〈進学校生のカン違い〉

北海道の自称進学校生です。

今まで自分の学校がそこそこのレベルであると思い込んでいました。

地元での評価はある程度高かったし、教師もやたらこの学校に入れたとはすごいことだみたいなことを言い、学校でやることをやっていけば一流大学へ行けるとも言います。

それで自分もある程度自信がありました。ネットで「自称進学校の過信」を見て「あれ・・・？ これ俺の学校のことじゃね？」

自分の自信、プライド、学校への信頼、そして慢心、それらが一気に瓦解しました。

そして自分を見返して見ました・・・

今までぬるま湯に浸かり、全く頑張っただけでよかった・・・自分の能力を過信し、その気になればできるんじゃないかという楽観。

模試の偏差値50ちょっとでも、それが進研模試は上位校が受けていない事実（つまり実際はもっと下の実力）

今の現状・・・やばすぎる！

ならやるべきことは一つ！ せめてあとの1年半でできることをやりつくすしかない！

とは言え、今まで自称進学校のぬるま湯に浸かってきた自分は何をすればいいのかよくわからない・・・

甘かった・・・そう、自分は全く幼かったのだ。（だからこそ自称進学校にいるのだろうが）

〈親のぼやき〉

息子は公立トップ校に進学したものの、成績不振から勉強に興味を持たず受験勉強を拒否、大学だけはと受けた〇大にも落ち、仕方なくその下のランクの大学に進学しました。

私は昔からその大学は大嫌いで、大学名を聞くたびに嫌な気持ちになります。嫌いな理由は、頭が悪いイメージ。でも心の中だけで思ってきたので、人には言ってません。

だから、何も知らない息子が入学を決めた時はショックでした。

本人は普通に通っていますが、私は未だに落ち込み、人には息子の大学を言ってません。息子の友人には一流大もいて、余計落ち込

みます。

進学校から一流とは言えない大学に進学した人もいるとおもいますが、ご本人はどのように思いましたか。また、私のような親の立場の人は、どのように受け止めましたか？一度聞いてみたいです。

心のなかではがっかりし、勉強さえやれば能力あったのだからそこそこの大学に行けたのに（今となっては親のカン違いとわかります）、その大学じゃ就職も差別されるよ、と黒い思いを心にためています。もちろん口にはだしません。

ふと、何のために育てたのかと考えますが、自分の子だとあきらめるしかないのでしょうかね。

<高校受験の失敗から学ぶ>

中学受験の経験もなく、小学生から中学2年生まで学校生活を楽しみながら、すごしてきた中学3年生が、はじめての高校受験を経験します。ここでは3人の中学生に登場してもらいましょう。

まず一人目は3人兄弟の末っ子の吉信君です。上のお姉さんとお兄さんは中学・高校とも成績優秀で、県内トップの進学高校に余裕をもち進学しています。

本人も同じ高校に進学したいようです。成績は主要5教科以外の4教科は優秀なものの、主要5教科は1ランク下がります。

次の人は2人兄弟の長男の正平君です。主要5教科の成績は、吉信君とあまり変わりません。それ以外の4教科は吉信君より1ランク下がります。

本人は県内トップのA進学校をめざしていません。彼は今の自分にあつた次のランクのB進学校（群制度のとき、A進学校と郡を組んでいた高校）をめざしています。

そしてもう1人、最後は2人兄弟の長男の祐介君です。主要5教科の成績は他の2人と変わりません。ところがあとの4教科の中の体育の成績が極端に悪いのです。彼がめざすのはB進学校です。

今回登場してもらったこの3人は、小学生・中学生と同じ学校で家もく、仲良しです。3人ともクラブ活動も夏休みまでしっかりやり、それ以降は受験勉強に専念してきました。

そしてまずむかえた私立高校の受験。彼ら3人は同じ高校を受験しました。全員が無事、私立高校の特別進学コースに合格です。そ

れで次は第一志望校の公立高校の決定をしなければなりません。

まず3人兄弟の末っ子の吉信君、お兄さんやお姉さんと同じA進学校を希望しています。しかし学力に余裕があるわけではありません。1ランク下げるかどうかかなり迷って、結局は県内トップのA進学校にチャレンジです。

次の正平君は前から自分のレベルにあったB進学校を選んでいきます。この選択は内申書から判断しても、妥当なところだと思われます。

ここで問題なのは最後の祐介君です。彼の実力はB進学校レベルには達しているものの、内申点はそのレベルには達していません。(この子たちの受験当時は、まだ成績評価が相対評価であったときです。)

A進学校であれば内申書より実力のほうが重視されるのですが、B進学校では内申書の評価も重要視されるのです。

祐介君の場合、A進学校の受験には余裕がないものの、かといってC高校に入学するよりは、私立高校の特進科に進むほうが、大学受験には有利なのです。

3人はいろいろ考えた末、結局、吉信君はA進学校、正平君と祐介君はB進学校を受験する事になりました。そして県立高校の合格発表の日がやってくることになります。

その結果は吉信君はA進学校に正平君はB進学校に合格です。しかし祐介君はB進学校に不合格になってしまいます。やはり内申書が影響したようです。それでも私立の進学校へ進むことが決まっているので、まずまずの結果はでています。

その後、この3人は高校生活を別々にすごすことになりました。そしてその3年後、再び大学受験がやってくることになります。

3人とも第一志望大学は国公立大学です。A進学校の吉信君の第一志望は首都圏の国立大学(幼児教育学部)です。B進学校の正平君と私立高校の祐介君は地元の国立大学(工学部)をめざしています。

高校受験から3年たつとかなり様子が変わってきます。大学受験直前の実力では、高校受験に失敗した私立高校の祐介君が、3人の中で一番成績がよくなっているのです。次はB進学校の正平君そして最後が、A進学校に進んだ吉信君になってしまっています。

そしてその時の3人の実力が実際の大学受験でも、そのままあらわれることになります。高校受験に失敗したあの祐介君だけが、地

元の国立大学に現役合格したのです。B進学校の正平君は国立大学には惜しくもおよびませんでした。そして彼は名古屋の私立大学に合格し、進学を決めています。

ところが一番ランクの高かったA進学校の吉信君だけが、現役合格を果たせなかったのです。そして一年後に再度、国公立大学をチャレンジしたものの、そのときもうまくいかず、結局、東京の私立大学に、1年おくれで入学が決まっています。

私はこの3人から多くの学ぶべきことがあるように思います。この3人の中で、高校受験に失敗したのは祐介君です。しかし大学受験では自分の志望する大学に、みごと現役合格を決めています。これは祐介君が高校受験の失敗を、十分いかせたからなのでしょう。

それに対して高校受験でうまくいった吉信君と正平君は、それだけで満足してしまっていたところが見られます。A進学校に進んだ吉信君は高校に合格したことに満足してしまっていて、次の目標が、なかなか設定されていなかったのです。2人は志望する高校に合格したことに、安心してしまっていたといえるでしょう。

もちろん志望する高校に進学して、そこから自分の志望大学にすんなり現役合格していく人たちはたくさんいます。しかしこの3人のように高校受験には失敗したが、大学受験では成功する例や、逆に高校受験で成功しても、大学受験で失敗する例もあるのです。

このことは成功から学ぶことより、失敗から学ぶことのほうが多いことをしめしています。失敗から多くを学び、そこから次に成功体験ができるように、みな自分をコントロールしているのです。

今度は大学受験に失敗した吉信君が、この失敗の経験を生かして、幼児教育の分野で、この経験を生かしてくれるでしょう。正平君はこれから先、まだ大学院に進むことを考えているようです。みなそれぞれ失敗から何かを学び、そこから再度スタートし、その後、成功体験を重ねていくことになるのでしょう。